

金山病院の役割 広報げろ 2018.4

金山病院の役割

下呂市立金山病院では平成29年、一年間に628人、881回の入院利用がありました。100人が2回から18回入院しています。

地域別では、下呂市70%、白川町20%、七宗町4%、関市、和良町、東白川村、その他となっています。

70歳以上は52%、80歳以上34%。15歳以下は18%です。性別は、全体では男性49%、女性51%ですが、70歳以上では男性45%、女性55%となっています。

入院の原因となった病気は、多い順から胃腸炎や胆石症、胃がん、大腸がんなどの消化器関連33%、肺炎、気管支炎などの呼吸器系18%、乳がんなどの皮膚軟部組織12%、筋、骨、関節などの整形外科関係11%、その他神経系、循環器系、内分泌代謝系などが続きます。複数の病名による入院、入院中にほかの病気が発生した患者さんもありますが、分類は主に治療を行った原因疾患によるものです。

院内での死亡例は5.5%49人で、17人は心肺停止の状態では運ばれてきた患者さんです。13人が末期がんでした。その他肺炎、心臓病、老衰などです。

そのような中で悪性腫瘍に関連する入院は21%でした。胃がん、大腸がん、乳がんなどの手術、その前後の抗がん剤治療や術後の合併症、がんの進行による様々な症状で入院治療を余儀なくされた方々が含まれます。金山病院では胃がん、大腸がん、乳がんなど手術のほとんどは当院で行っていますが、危険な合併症を抱える患者や、肺がんなど専門の治療が必要な場合は大学病院など連携する病院に紹介しています。そのような患者さんや、他病院で、手術を行った後、当院に紹介されてきた患者さんの術後療法なども行っています。

日本では今後二人に一人ががんになるとされ、がんの治療は地域の維持をも左右する大変身近な問題となっています。金山病院でも、多数回にわたる入院理由のほとんどはがんに関係したものです。がんの治療においては地域で生活しながらも、療養の経過中には様々な合併症や、抗がん剤治療、その副作用など、緊急に対応が必要なこともあり、住んでいる所の近くで入院対応できる病院が必要です。

近年、地方病院の医師不足が問題となっています。医師不足で手術が行えなくなった病院では、勤務を望む医師の確保が困難です。医師が不足すれば病院が成り立たなくなる。医師不足の悪循環です。がんの治療、救急医療共に、手術のできる病院があつてこそできることです。また救急医療で外傷の管理に携わる医師は、がんの手術を行う技量が要求されています。さらに、医療の面で地域の維持を支えるためには時間的に通院可能な病院の配置が必要です。金山病院はこのような状況から、がんの治療、救急医療を行うために手術のできる病院として地域に貢献すべく努力しています。今後とも、地域の皆様のご支援をよろしく願いいたします。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦